



金総なぎさ通信

平成 28 年 12 月 22 日

校長 磯崎 薫

なぜ、「なぎさ通信」なの？

この掲示物も「金総なぎさ通信」としましたが、そもそも「なぎさ」は何に由来しているのか、知っていますか？

平成 15 年、開校直前の 11 月 1 日、この学校の名前「金沢総合高等学校」が県議会で決定されます。それが、翌 11 月 2 日に新聞紙上で公開されました。だから、本校の開校記念日は、11 月 2 日になっています。

この学校の名は、校名検討委員会という県の組織で案が作られましたが、その際、統合する富岡、東金沢両校にも意見を聞いて、検討することになっていました。そこで、両校の当時の先生方は、先生も考えるけれども、統合して一緒になる生徒にも聞いてみようということになりました。その結果、先生・生徒のなかで一番票を集めたのが、「横浜なぎさ総合」でした。校名検討委員会で意見を表明し、そこでも良いセンスだと褒めていただきました。しかし、地域名を盛り込む県全体の方針のなかで、現在の校名になったのです。

校名として「なぎさ」は使われませんでした。当時の先生や生徒の新たな学校への思いから、いくつかのところで、現在の金総でも「なぎさ」が残っています。手作りの学校づくりをしようとの心意気がこもった思い出のある言葉なのです。

金総の前身のひとつ、富岡高校のときよりお勤めいただいた、「野菜」の授業の講師の先生の熊谷先生が 11 月いっぱいでご退職なさりました。富岡高校時代から通算 19 年間も働いてこられました。これまでの金総の流れをずっと見てきた先生です。なによりも授業を通して、生徒の皆さんを見てきました。その熊谷先生が、「本当に、生徒のマナーが良くなった。良い生徒ばかりの学校になりました。」とお褒めの言葉を頂きました。「自分の孫にも通わせたい学校」ともおっしゃっていました。

金総の農場の基礎を作っていただきました。また、多くの金総生をご指導くださりました。感謝、感謝、感謝です。

科目訪問「コーラス」細川先生

音楽室に近づくと、歌声が響いてくる。水曜日の午後の授業は、「コーラス」。20 人くらいの生徒が細川先生のキーボードの周りに集まって、歌声を響かせていました。聞かせていただいたのは、「諸人こぞりて (JOY TO THE WORLD)」。有名なクリスマスの賛美歌のゴスペルバージョン。後半は、手拍子も入って、楽しそうに歌っていました。



細川先生は、パワーコーラス(ゴスペルから宗教色をなくし、でも黒人の歌唱の迫力を残したもの)のプロの指導者です。他の総合学科でも講座を持ち、教室も持っています。シガーとしても活躍中です。

1 月 25 日(水)には、福祉施設でコンサートを開き、ゴスペルの有名な曲をいくつか歌い、聴いている人も参加できる歌もあるとか。また、3 月には、3 年が卒業して人数は少なくなるけれど、パワフルな歌声を披露する校内ミニ・コンサートが開ければ、いいな、とのことでした。